

第 2 巻 に つ い て

生 田 靖

第2巻は、第1章の「国家独占資本主義的市場編制の理論と現実」という御園論文にそって現状分析がなされている。第2章以下、農産物市場政策という政策の問題、農産物取扱い資本という実際の市場機能をになっている商業資本の運動の問題が分析され、さらに青果物、畜産物、加工農産物等について50年代後半以降のいわゆる高度経済成長過程において、いかに市場構造が変化し、変質していったかという問題が、先ほどいった国家独占資本主義的再編制の問題として分析されている。それに加えて現状分析としては欠かすことのできない、農業インテグレーションとか農協組織あるいは市場の技術的機能というものがとりあげられ、最後に、これも当然わが国の場合は欠かすことのできないアメリカの農産物市場の帝国主義的性格を美土路論文によってしめくられている。だから第2巻全体は単に農産物市場の現状分析にとどまらず、期せずして日本の農業の構造分析にまでいたっているといつてよい。実はそこに評者は第2巻の大きなメリットを見い出す。したがって、第2巻の現状分析の構成や内容じたい評者も日頃研究している市場問題とおよそ一致するものであり、またいままで個々に研究成果があげられてきたその成果の集大成のようなものになっているので、評者はおおかた賛成であり納得できる。となると、所論におおかた賛成であるということになってしまって、評者がコメンテーターとしてコメントするのは適当でなくなる。むしろ流通の大型化・近代化に賛成され、政策的にもそれを支持されているかたに登場してもらい、その人がコメントされるほうがよいのではないかと思うが、一応大局的な視点から五つほど問題を出してみたい。

ところで、午前中第2巻の報告者が同時にコメントもつけ加えてくれたので、評者の論点といくつか重なるところがでてくる。コメンターの領域侵犯であるが、今変更も出来ない所以以下5点ばかりコメントしたい。

まず第1点。米を中心とした穀物市場の問題についてである。この現状分析では、少なくともこれを真正面から取り上げて分析していないが、その理由はどこにあるのか若干の疑問をもつ。この点は評者の理解不足かもしれないが、第2の現状分析においては、我国の農産物の場合の直接的あるいは間接的な統制を必ずしも強く受けていない農産物（これもニュアンスがあり、とくに間接的ということになると、かなり政策的な統制的なものを受けていると理解される面もあるが）少なくとも直接的、間接的に必ずしも強く統制を受けていない農産物市場の問題について主として分析を加えたものと思う。したがって、米とか小麦とかいう商品は分析の対象からはずしたのだと理解したが、あるいはその他に理由があるかもしれない。一応疑問点として出したい。今回の日本農業経済学会のシンポジウムで出されたように、生産者段階、すなわち産地段階でも米の価格は1：1.6の価格差が存在する。消費者段階では標準米と特選米というようなかっこうで、標準米は3,000円だけれど特選米の

高いものは、その倍以上もする。消費者段階では生産者の段階よりも、もう一つ大きい価格差を生んでいる。しかもここで分析されている国家独占資本主義的市場編制ということから言えば、米はもっと高い編制地点に立っている。そのようなことも確か本文の中に出ていた。その分析が欠落している。しかも国民食糧としても何兆円商品、というようなことが言われているが、そういう商品額としての大きさの問題、そうして生産調整において他の農産物に作付転換がなされるとすれば、その作物商品の価格に影響を大きく与えられるという米の性格からしても1章を起こして分析すべきではなかったか。これは評者の願望であり、あるいはそれなりの理由があったのではないかとも思う。その点がまず第1点。

第2点。輸入農産物のあり方が国内農産物市場のあり方とくに価格にストレートに影響をおよぼしている。例えばみかんの価格暴落・変動、あるいは生産への影響というものが、輸入柑橘類とストレートに結びついている。だから青果物の中でも、果物の分析というものが輸入農産物市場との関連で非常に大きな問題になるのではないかと考えている。さらにつけ加えれば国家独占資本主義的市場編制が進行する中で、輸入農産物の動向と国内農産物市場とが関連している問題、その両者がストレートに関連する問題を、例えば果物を例に上げて具体的に分析されれば、最後の章に出ているアメリカの帝国主義的な農産物市場の進行状態などとも関連して鮮明になったものではないか。これが第2点。

第3点は、農業インテグレーションに関係する問題である。この現状分析で非常に明確に出されているのは現在の農業インテグレーションはもっぱら農外資本、商社資本を中心とした農外資本の主導のもとで行なわれている。したがって農業インテグレーションは生産者農民のためにもなっていないし、消費者のためにもなっていない。農協がこのインテグレーションととりくむ場合も、もっぱらそういう農外資本の下請け的なものか。あるいは農協それ自体の経営のためにやられている。農協の経営上必要にせまられてという表現がよいかどうかかわからないが、とにかく農協の組織成員である組合員のためのものではないが、一般的形態での現実にはそれは認めざるをえない。そこでそれと関連させて一つ大胆に問題を提起をしたい。農協組織は巨大な組織をもち、世界に冠たる組織だという評価をもつ。ある意味では評価もそういう評価をしないわけではないが、では、なぜこのように大きな組織体である農協が、商社を中心とした農外インテグレーションによる市場編制の進む中で手をこまねいて来たのか、来ざるをえなかったのか、そうして本来農産物市場で農協がシェアを占るべき分野をあけ渡してきたのはなぜなのか、逆に言えば農協組織が組合員のためになるような、あるいはひいては、第3巻とも関連するのだが、勤労消費者のためにもなるようなインテグレーション的なものを作り上げえなかったのか。その要因、あるいはそういう実態等について、もう少しふれられながら、第3巻に向けて農協こそ真の組合員のためになるような農協インテグレーションを作りあげねばいけないというようなことにもふれられおればというような気がする。逆に言えば、本当に組合員のために

なるような真のインテグレーションを農協組織が作り上げるような条件は現状の農産物市場条件の中にあるのか、ないのかということにも言及されていればと思う。

次に第4点。現段階の市場編制は1950年代後半から進められてきたが、このような国家独占資本主義的市場編制に反対する側というか、いわゆる反独占の側、政治的側と言えば革新勢力の陣営にあるいは少なくともいまのような国家独占資本主義的市場編制に反対する側に、この国家独占資本主義的市場編制に対置しうるような、そういう具体的な市場政策があったのであろうか、報告者の最後のコメントのところになぞらえて言えば市場編制がもたらした大型化・近代化にもそれなりのメリットがあったからこそ生産者にも流通段階の業者にも受け入れられたというような評価も含めて考えてみたい。たしかに多くの批判は必要であり、そうして批判を続けていかなければならないが、それとともに具体的な市場政策、具体的な対応政策というものをもち、それにもとづいて政策提案をつねにおこない、しかも政策提案だけではなく、それを実現するための手続も常に考えるということ、少なくとも先ほどの体制に対峙する勢力はやらなければならない。それがなかったのではないか、これは非常に一方的な理解かもしれないが、どうもそういう政策提案をしないために、押し流され、したがって農家も流通中間業者も、その波の中にまきこまれていったのだと考える。そういう政策があったのかどうか、あったけれども、どこかに欠陥があって、やはりこうなってしまったのか、そのところが、評者の研究不足でよくわからない。評者はどうもなかったのではないかと考えている。そのことがかなり決定的な弱い環となったのではないか、これは第3巻の今後の展望と関わり合いながら、評者が考えている第4点である。

最後に第5点。これは若干思いつき的なことなので、オーソドックスな形で整理できないのだが、農産物市場論において、マーケティング的な分析がほとんど今までない。第2巻でも、そういう側面での現状分析はやられていない。アメリカなんかのマーケティングは、まず農産物マーケティングから学問的な発展がなされてきたことは周知のとおりである。そうして現在少なくとも独占資本がにぎっている加工食品については、それなりのマーケティングがやられている。それと同じことを生産者もやれというわけではないし、またやれるわけでもないが、少なくとも農産物を食糧品として商品の安全性、栄養性あるいは生鮮性などが強調されそれがマーケティングと結合されなければならない段階にまいつているのではないか。先ほど社会主義国にも公害があるというようなお話があったが、そしてまた米の消費減退に対して農協組織が一生懸命それなりのマーケティングをやっているのだと思うが、そういうものや地場流通の問題やあるいは地域食糧の問題なども含めて、マーケティング的分析が必要なのではないか。この点はさきにも指摘したように非常に思いつき的なことだが、農産物市場の問題を今後の展望につなぐ一つの手がかりとなるのではないかと考える。

最後にこれは言葉の問題だが、国家独占資本主義的市場編制という場合の言葉が「制」であったり、「成」であったりするわけで、これは意識的に使い分けられているのか、あるいは「成」「制」をぬ

いた再編ということばとも関わって、そこらへんのところが、評者には明確には読みとれなかったの
で説明いただきたい。

（ 関西大学 ）